

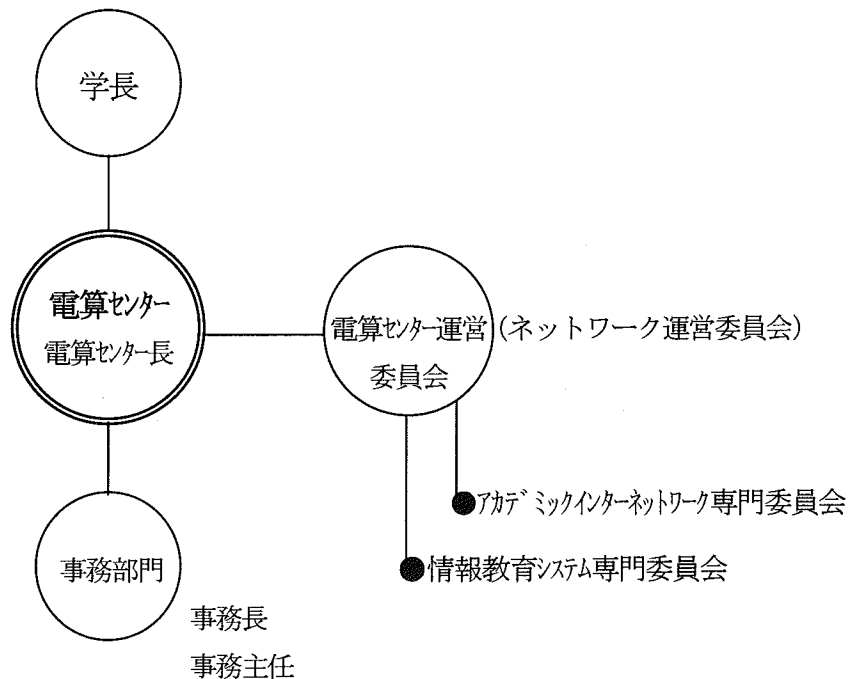
2 電算センター

(1) 沿革

- 昭和63年 4月 東京情報大学開学
電算センター設置 (340㎡)
汎用コンピュータ富士通M760/6システム導入
コンピュータ実習室3室 (281㎡, 236㎡, 211㎡)
及びオープン実習室 (70㎡) 設置
実習室用パソコン167台導入
研究室及び事務用パソコン73台導入
- 12月 コンピュータ実習室補助モニター設置
オープン実習室補助モニター設置
電算機室防災設備設置
-
- 平成 元年 4月 UNIXワークステーション導入
6月 学内LAN構築 (研究室・実習室LAN接続)
-
- 平成 2年 4月 東京情報大学パソコンネットワークシステム
(T u i s - N e t) 導入
大学間コンピュータネットワーク網加入
学術情報センター網加入
6月 東京情報大学パソコンネットワークシステム
(T u i s - N e t) 運用開始
10月 新コンピュータ実習室設置 (430㎡, パソコン150台)
コンピュータ実習室2室 (430㎡, 281㎡), オープン
実習室1室 (211㎡), 卒業研究用実習室 (236㎡)
及び大型周辺機器室 (70㎡) として整備
卒業研究用UNIXワークステーション導入
-
- 平成 3年 4月 UNIXサーバー機導入
10月 大学院研究室LAN敷設
-
- 平成 4年 4月 大学院用UNIXワークステーション・パソコン導入
8月 汎用コンピュータ富士通M1600/6システムに更新
学内LAN整備 (基幹LAN (FDDI) と支援LAN)
サーバ室設置整備
-
- 平成 5年 4月 実習室用ワークステーション・パソコン更新増強
Xウィンドウ端末機20台導入
-
- 平成 6年 4月 研究室用ワークステーションパソコンおよび事務用パソコン更新
インターネット用専用回線64Kbps 開通
(本学-千葉大学)
6月 東京地域アカデミックネットワーク (TRAIN) 加入
-
- 平成 7年 12月 インターネット用専用回線192Kbps 変更
-
- 平成 8年 4月 新情報教育システムとしてWindows 95パソコン実
習室3室とUNIXワークステーション実習室2室に更新
整備
-
- 平成 9年 4月 研究室用ワークステーション・パソコンおよび
事務用パソコン更新
-
- 平成10年 3月 インターネット用専用回線1.5Mbps 変更
学術情報ネットワーク (SINET) 加入

(2) 組織・運営

①組織



②運営

電算センターは、コンピュータ実習室等の機材やソフトウェアの維持管理を通じて、情報処理教育並びに研究活動の支援を行うことを目的としており、併せて、大学業務の電算システム化の推進の任にあたっている。

また、電算センターの適正な運営を図るため、電算センター運営委員会を設置し目的に添って方針、計画を策定し運営している。更にコンピュータ実習環境については、情報教育システム専門委員会、ネットワーク環境については、アカデミックインターネットワーク専門委員会をそれぞれ設置し、調査、検討を進めている。

(3) 施設・設備

① 施設

1階	102コンピュータ実習室	(パソコン 142台)
2階	電算センター	(大型汎用機一式)
	サーバー室	
	221コンピュータ実習室	(パソコン 61台)
3階	322コンピュータ実習室	(ワークステーション 71台)
	323コンピュータ実習室	(ワークステーション 71台)

② 設備

1) 大型汎用機（富士通 M1600/6）：一式

	富士通 M1600/6				
	磁気ディスク 60.48GB	磁気カートリッジテー プ	磁気テープ	日本語レーザー プリンター	OPR
		台 4	台 2	台 3	台 4

2) 教育・研究用機器

所管・設置場所	パソコン	ワープロ	ワークステーション	レーザープリンター	シリアルプリンター	ネットワーク接続 状況
102コンピュータ実習室	台 142	台	台	台 16	台 2	○
221コンピュータ実習室	63			6	1	○
322コンピュータ実習室	3		73	8		○
323コンピュータ実習室	3		73	8		○
6階デジタルメディア共通研究室			6	2		○
6・7階教員研究室	75	3	7	75	47	○
7階大学院研究室	37		4	12	5	○
電算センター	24	14		8	4	
合計	310	17	163	135	59	

3) 事務用機器

所管・設置場所	パソコン	ワープロ	ワークステーション	レーザープリンター	シリアルプリンター	ネットワーク接続 状況
事務局長	台 1	台	台	台 1	台	○
庶務課	7	1		2		○
会計課	6			1		○
教務課	6			2		○
入試・広報課	6			1		○
学生課	6			1		○
就職課	6			1		○
教育研究情報センター	6			2		○
合計	44	1		11		

4) ネットワーク設備

- ・基幹 LAN—FDDI 100Mbps
- ・支線 LAN—Ethernet 10Mbps

(4) 教育研究支援

① コンピュータ実習室利用カリキュラム

	授業科目	開 講 年次	単 位	1995 年度 以前入学	1996 年度 入学	1997 年度 以降入学
共通基礎科目	情報リテラシー演習/経営学科	1	2		◎前期	◎前期
	情報リテラシー演習/情報学科	1	2		◎前期	◎前期
	情報リテラシー演習/情報文化学科	1	2		◎前期	◎前期
経営学科	情報処理概論演習	1	2	◎後期	◎後期	◎後期
	プログラム言語 I	2	2	前期	前期	
	プログラム言語 I 演習	2	2	後期	後期	
	プログラム言語Ⅲ演習	2	2	前期	前期	
	プログラム言語 a	2	4			通年
	コンピュータ会計	3	4	◎通年	◎通年	
情報学科	情報処理概論	1	2	◎後期	◎後期	
	情報処理概論演習	1	2	◎後期	◎後期	◎後期
	プログラム言語 I	2	2	○前期	○前期	
	プログラム言語 I 演習	2	2	○通年	○通年	
	プログラム言語Ⅱ演習	2	2	○通年	○通年	
	データ構造論	2	4	通年	通年	
	ソフトウェア基礎 a 演習	2	2			○通年
	プログラム言語 a	2	4			○通年
	プログラム言語 a 演習	2	2			○通年
	プレゼンテーション論	2	2			○前期
	情報数学 a	2	2			前期
	情報数学 b	2	2			後期
	プログラム言語Ⅳ演習	3	2	通年	通年	
	プログラム言語Ⅴ演習	3	2	通年	通年	
	データベース管理システム	3	4	通年	通年	
	コンピュータ会計	3	4	通年	通年	
情報文化学科	情報処理概論演習	1	2		◎後期	◎後期
	マルチメディア論 I 演習	2	2		○通年	○通年
	プレゼンテーション論演習	2	2		○通年	○通年
	プレゼンテーション論	2	2			○前期
	マルチメディア論Ⅱ演習	3	2		通年	

(注) ◎印は必修科目, ○印は選択必修科目

②情報教育システム環境

1996 年度 (平成 8 年度) のカリキュラム改定にともない, 従来の講義・演習カリキュラムに加えて「情報リテラシー」, 「EUC 関連実習」が導入されたことにより, コンピュータ実習用教育システム環境を UNIX 環境と Windows 環境をベースにネットワークを機能的に利用できるシステム環境に整備し, 本学の特色を生かした教育ができる環境に刷新した。

また, 大型汎用機についても, 従来の言語教育に加えて, G U I (グラフィカル・ユーザー・インターフェイス) 等の導入によって一層の情報処理教育の充実を求めるべく, 平成 8 年度に新しい大型汎用機を導入し, 処理能力, 記憶容量等の向上をはかっている。

コンピュータ実習室は, UNIX 環境, Windows 環境それぞれ 2 教室ずつ整備し, 授業で利用していない時間帯は, 学生が自由に利用できるようオープンにしている。そのため, 実習環境が変更されないようなしくみをシステムに取り入れ支障が出ないようにしている。

ネットワーク利用を前提としているカリキュラムがあるので, 学生全員がインターネット等学内外のネットワークを活用できるような環境としている。

③研究室用機器環境

1997 年 4 月（平成 9 年 4 月）に各研究室に設置してある本学独自のパソコンネットワーク（Tuis-Net）用の機器を、1996 年度（平成 8 年度）の情報教育システム環境の更新にともない、コンピュータ実習室との整合性、大型汎用機との LAN 接続及び電子メール等インターネットの利用できる機器環境に整備し、教職員全員に利用者 ID を配布し利用できるようにした。

④パソコン通信ネットワーク（Tuis-Net）

平成 2 年に東京情報大学独自のパソコン通信ネットワークを開設し、学内外におけるコミュニケーションツールとして、連絡、意見交換、課題提出等、情報交換に活用するなど学内、本学周辺地域との連携の役割を果たしてきた。しかし、現在のインターネットの実用可能性とその普及範囲を考慮し、平成 9 年 11 月に既存のパソコン通信ネットワーク（Tuis-Net）を発展的に解消して、イントラネットを構築することとした。その結果、効果的な情報交換ばかりでなくホームページによる効率的な情報発信ができると考えている。

（５）事務業務システム

① 事務業務システム

事務業務の電算システム化は、事務処理手続きを決定する際に開学当初から大型汎用機により、システム化を前提に進められてきたので、ほぼすべての業務において電算化されている。しかしながら、制度変更や新たな制度の制定にともなって随時修正が発生するため、各事務所管からの依頼を整理し内容や作業量などを検討考慮し、年間スケジュールをたてて対応している。また、開発期間、人員、費用等の事情により、各事務所間の要望をすべて満たすことはできないため、積み残しが溜まっている状態である。これらの修正は当初のシステムを基に修正を加えながらの対応となるので、時代に即した柔軟なシステムとならないため、根本的にシステムの見直しが必要となった。

さらに、2000 年問題への対応も課題となった。そこで、平成 10 年度より、クライアントサーバー型への移行を開始した。平成 11 年 12 月末日までに、移行を完了する予定である。

② 事務 OA 環境

事務所管の OA 環境を 1997 年 4 月（平成 9 年 4 月）に、従来の環境から Windows95 環境に大幅に変更し、GUI による操作性のよい環境とした。それにともなってワープロなど OA ソフトについても Oasys から Word へと Office97 の環境にし情報形式の統一を図り、電子メール、www 等インターネットの利用できる環境に整備した。さらに、各所管ではホームページの開設、運用も本格化してきている。

（６）総括

世の中の情報システムは、メーカー標準のメインフレームによる集中処理方式から、業界標準のオープン・ネットワークシステムによる分散処理方式に移行した。大学における情報システムも当然、同様な変革に対応していくことになっている。

その際、電算センターにとって非常に重大な問題に対応しなければならなくなる。すなわち、

業界標準のハードウェア、基本ソフトウェア、そしてネットワーク・ソフトなどのミドルウェアなどは、メーカー・サイドでは商品パッケージ群を提供するのみで、各ユーザーサイドで、自分達に見合うシステムを自分達で設計し、自分達で実装しなければならないことである。事実、世の中はコンピュータ・メーカーやソフトウェアハウスなどの業種は消滅し、“リソリューション・ビジネス”（ユーザの情報システムを一括請け負うビジネス）が、その中心になってきている。

この流れに対応するために、大学における電算センターも、現状の事務部門のみの体制から、大学内の情報システムの設計、実装が可能な技術部門が必要不可欠になってくる。

さらに分散処理方式では、ネットワークシステムの設置、運用がインターネットの普及に合わせて、重大になってくる。このネットワークシステムも、ユーザ毎に固有の最適化が不可欠であり、そのためにも、学内の業務処理全般に通じ、かつネットワーク技術を持つ技術部門が不可欠になる。

いずれにしても、この数年間で、学内の情報サービス部門も、時代の動きに見合うように再構築されなければならないはずである。

東京情報大学事務局・電算化状況

(平成10年5月現在)

所管	システム名	オンライン名	現適用業務
会計課	財務システム	財務オンライン	● 予算管理業務 ● 伝票処理 (入金・出金・振替) ● 物件管理 (物件調達・調達願の入力～出金) ● 資金収支関係業務 ● 法人用伝票ファイル作成
	コードマスターシステム	コードマスターオンライン	● 業者コードの管理
	学費システム	学費オンライン	● 授業料マスター管理 (合格者・入学者登録, 学籍更新) ● 納付依頼書, 納付督促状作成 ● 納付状況管理 (入金・返金・振替・日締め)
教務課	学籍システム	学務オンライン	● 学籍管理 (入学～卒業) ● 正保証人, 副保証人の管理 ● 証明書発行管理 (在学, 卒業見込み, 卒業, 成績) ● 住所ラベル出力
	履修成績システム		● マスター管理 ● 履修登録管理 (必修科目自動登録, 履修登録, 履修修正等) ● 定期試験座席表管理 ● 成績登録処理 (追試験, 再試験を含む) ● 成績原簿出力 ● 卒業 (進級) 判定処理
学生課	学生システム		● 学生証発行 ● 健康診断管理 (証明書発行を含む) ● 学生生活管理 ● 特待生管理 ● 奨学生管理 ● 学生現住所管理 ● 後援会用資料作成 ● 留学生状況管理
入試・広報課	入試システム	入試オンライン	● 志願者登録 ● OMR 採点, 採点集計, 偏差値処理 (一般入試のみ) ● 合格処理 ● 入学手続き処理 ● 学籍番号付番処理 ● 各種統計資料出力 ● 高校マスター管理
就職課	就職システム	就職オンライン	● 企業情報管理 ● 求人管理 ● 決定者情報管理 ● 各種統計資料出力